

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和5(2023)年2月1日 水曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

伝教大師のご遺戒を体し

延暦寺年賀式



令和5年延暦寺年賀式が1月8日、延暦寺会館で行われ宗内諸大徳や政財界から280名余りが出席。数え年で100歳を迎えられた大樹孝啓天台座主親下にご挨拶を行い新年の門出を祝った。また比叡山から発信する今年の言葉「開発真心」が発表された。

年賀式は午前11時に開式され、延暦寺一山住職出仕のもと大樹座主親下を大導師に法楽を奉修。水尾寂芳延暦寺執行が大樹座主親下に新年の挨拶を言上した。

大樹座主親下は「お言葉で、まずは昨年の傳燈相承式を振り返られ「座主としての務めを果たすことを宗祖大師

にお誓い申し上げました」と述べられた。そして盛會裡に幕を閉じた特別展「最澄と天台宗のすべて」や比叡山宗教サミット35周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」など山上山下での諸行事への感想を語られた。

また国内外で頻発する自然災害の多発や、戦争やテロ

行為、コロナ禍について憂慮を示された上で「大きな気候変動とコロナ蔓延の最中に迎えた伝教大師一千二百年大遠忌ではありましたが、むしろ我々一人ひとりが為すべき事をじっくりと考える時間を与えてくださったようにも思います。最澄さまの『努めよ努めよ』とのご遺戒を体し、地球上のあらゆる命が生き生きと幸せに暮らせるよう共に祈りを捧げてまいりましょう」と、会場に呼び掛けられた。

続いて阿部昌宏天台宗宗務総長、比叡山法灯護持会会

お互いの仏性を 開き発こそう

新春恒例の「比叡山から発信する言葉」には、水尾延暦寺執行から『開発真心』の心を開き発こそう』が発表された。

「真心「まごころ」とは、嘘偽りの無い心。それは私たちの「真実の心」に他なりません。真心を込めれば必ず相手にも通じます。相手にも通ずるころ、それは皆に具わっている「仏性」ほとけごろです。お互いの仏性を、開き発こそう、目覚めさせましょう」と紹介している。



長の鳥井信吾サントリーホールディングス株式会社副会長、加藤好文京阪ホールディングス株式会社社長、三日月大造滋賀県知事、馬淵直樹日吉大社宮司、全国国宝重要文化財所有者連盟理事長の落合偉洲久能山東照宮名誉宮司らが登壇して挨拶した。

阿部宗務総長は「祖師先徳鑽仰大法会の集大成として3月16日に結願法要を予定している。各祖師方の御遺徳を改めて偲ぶ機会とし、宗祖伝教大師のみ教えを未来につないでいきたい」と述べた。さらに世相にも触れ「社会に満ち溢れた閉塞感や人心の闇を照らすには神仏の力をおいて他にはない。宗祖伝教大師の御誓願である法華一乗の社会、すなわち浄土の実現に向け邁進してまいりたい」と決意を披露した。

極微

天が今にも落ちてきほしないかと思ひ、夜も寝られず食事も喉をとらないほど心配する古代中国の杞の人の憂いをさして「杞憂」というが、こんな無用の心配は、笑って済ませるのが普通である▼1962年10月、キューバへのソ連のミサイル配備に抗議したアメリカがキューバを封鎖し、米ソの対立が核戦争の危機となったことがあった。それ以来、今日まで、核戦争への危惧はなりを潜め、核兵器使用の恐れはなくなったかに思えた。まさに杞憂となったかに感じさせた▼だが、ここに来て、にわかにかにそれが現実感をもってきた。ロシアによるウクライナ侵攻に伴い、核使用の恐れからである。ロシア側の苦戦によって戦術核が使われる可能性を指摘する声が起こってきた。ロシア側、プーチン大統領のコメントにもそれを示唆する文言がある。もちろん、ウクライナやその後ろ楯である西側諸国に対する牽制の意味もあるが、核使用の危険性にかつてに比べてはるかに大きいものといえよう▼イソップ童話に出てくるオオカミ少年の話ではないが、本当にオオカミが襲ってくる(核兵器使用)現実感が湧いてきたのだ。今後も戦争状態は続くことだろう。その過程で、意図的あるいは偶発的な核使用があり得る。たとえば嘘つきのオオカミ少年だといわれようと、これだけは心配し過ぎることはない。